

生徒が介護用機器について学んだ体験学習会



センサーマットや電動車椅子



電動の車椅子で段差を乗り越えようとする生徒

大館桂桜高生が実体験

60人、介護職の魅力学ぶ

大館市の大館桂桜高校で、労働安定センター秋田支部の介護現場で使われているロボ 主権。生活科学科で福祉を学ぶとや電子機器について学ぶ 生徒に介護職の魅力や現状体験学習会が開かれた。2、を知ってもらおうと15日に実3年約60人が参加し、介護職 施した。

県内4事業者が介護利用者 同校や県長寿社会課、介護をサポートしたり、介護する

人の負担を軽減したりする機器をそれぞれブースで紹介。生徒は4班に分かれ、担当人、する人双方にとってプラスになると感じた」と話し

た。このほか電動の車椅子や、排せつ状況を検知するセンサーなども紹介された。

(間杉大樹)

このうち、センサーマットは、ベッドのマットレスの下にセットし、介護利用者の動きを検知して介護職員が携帯する電子機器に起き上がりなどを通知する。転倒や転落のリスクがある介護利用者の安全性向上に役立つという。担当者は「介護する側としては一括での在床管理が可能になり、夜間の見回りが飛躍的に効率化された」と説明。心拍数や眠りの深さもデータとして蓄積される。

3年の佐々木里奈さんは「実際の介護現場でこれだけ